

# おかげさま



今年の8月の暦を見ると、新暦と旧暦の日にちが重なっている。月遅れのお盆と旧暦のお盆が重なっている。ちなみに、8月15日は満月となっている。



8月といえば、毎年繰り返される「日本民族の大移動」。満席の飛行機や列車、高速道路の大渋滞。欧米のバカンスも渋滞を伴うが、そこに欧米と異なり、悲壮感も漂うような。

その差は、それらの成り立ちに大きな影響を受け、社会の変遷に振り回されているのではないだろうか。

事の起こりは、江戸時代に広まった商家を中心に広まった「藪入り」と言われる。

藪入りとは、

藪入りの習慣が都市の商家を中心に広まったのは江戸時代である。本来は奉公人ではなく、嫁取り婚において嫁が実家へと帰る日だったとされるが、都市化の進展に伴い商家の習慣へと転じた。関西地方や鹿児島地方ではオヤゲンゾ(親見参)などと呼ぶところもある。六のつく日に行われることから、関西では六入りとの呼び名もある。

盆会の歌  
家ごと灯す 燈籠の  
灯影に法の道慕い  
残れるゆける 諸共に  
相逢う今日のまつりかな



**ありがとう おかげさま 浄土の言葉で ナモアマダブツ**  
**8月 6日 (火) 仏婦・仏仕 物故者追悼法要**  
**8月 16日 (金) あけしの郷・樹覚寺孟蘭盆会法要**  
**ともどもに、ご恩報謝のナンマンダブツ**

藪入りの日がこの二日となったのは、旧暦1月15日(小正月)と旧暦7月15日(盆)がそれぞれ重要な祭日であり、嫁入り先・奉公先での行事を済ませた上で実家でも行事に参加できるようにという意図だったとされる。そのうちに、地獄で閻魔大王が亡者を責めさいなむことをやめる賽日であるとされるようになり、各地の閻魔堂や十王堂で開帳が行われ、縁日がたつようになった。



藪入りの日となると、主人は奉公人たちにお仕着せの着物や履物を与え、小遣いを与え、さらに手土産を持たせて実家へと送り出した。実家では両親が待っており、親子水入らずで休日を楽しんだ。また、遠方から出てきたものや成人したのものには実家へ帰ることができないものも多く、彼らは芝居見物や買い物などをして休日を楽しんだ。

藪入りは正月と盆の付随行事であったため、明治維新が起き、太陰暦から太陽暦への改暦が行われると、藪入りも正月と盆に連動してそのまま新暦へと移行した。文明開化後も商家の労働スタイルにはそれほどの変化はなく、さらに産業化の進展に伴い労働者の数が増大したため、藪入りはさらに大きな行事となった。藪入りの日は浅草などの繁華街は奉公人たちでにぎわい、なかでも活動写真(映画)などはこれによって大きく発展した。

第二次世界大戦後、労働基準法の強化などにより労働スタイルが変化し、日曜日を休日とするようになると藪入りはすたれ、正月休み・盆休みに統合されるようになった。藪入りの伝統は正月や盆の帰省として名残を残している。

藪入りとは、本来「里帰り」なのです。時代とともに家族意識、家族構成が変化して、故郷を構成する要素の中に私なくなり、実家の構成員の中に自分との親子関係が存在しなくなった時、里帰りの習慣はなくなるのだろうか。

兄弟は他人の始まり(親子関係とは別物)。同居していない祖父母は親戚のお祖父ちゃん、お祖母ちゃんだという。ご先祖様が語られなくなった時、お盆の形も変わるのだろうか。

因縁生起の世界だから娑婆という。逃れられない絆の世界に生きる。



## お盆 (おぼん)

亡くなられた先人たちのご恩に対し、あらためて思いを寄せるのがお盆である。

親鸞聖人は仰せになる。

がんど  
願土にいたればすみやかに  
むじょうねはん しょう  
無上涅槃を証してぞ  
(わ) だいひ  
すなはち大悲をおこすなり  
えこう  
これを回向となづけたり。



浄土へ往生した人は、如来の願力によってすみやかにさとりをひらき、大いなる慈悲の心をおこす。迷いのこの世還り来たり、私たちを真実の道へ導こうと常にはたらかれるのである。

仏の国に往き生まれていった懐かしい人たち。仏のはたらきとなって、いつも私とともにあり、私をみまもってくださる。

このお盆を縁として、すでに仏となられた方々のご恩をよろこび念仏申すばかりである。

『拝読 浄土真宗のみ教え』より

《あけしの郷 明石山樹覚寺》  
参加をお待ちしています

八月 一日	晨朝会
八月 六日	仏壮仏婦物故者追悼法曹
八月 十六日	孟蘭盆会法曹
八月 二十一日	お寺の林間学校 (群馬県榛名山)
九月 一日	晨朝会
九月 八日	仏婦
九月 十八日	豊流十方法曹
九月 二十三日	豊き渡れ 平和の願い
九月 二十五日	みんなの作品展
九月 二十六日	秋季彼岸会
九月 二十三日	讚仏会(彼岸会)法曹
十月 一日	晨朝会
十月 八日	仏婦
十月十六日	教区仏婦一泊研修会
十月十九日	報恩講準備 (二十日お磨き)
十月二十三	報恩講法曹
十月二十四日	報恩講法曹

真実の歩みは安心の歩み 念仏とともに



# あけし あれこれ

## コーヒー(珈琲)の木

なかなか明けない梅雨ですが、  
 お便りが届く頃には暑い夏到来で  
 しょうか。不順なお天気の中で嬉  
 しいことがありました。花が咲く  
 といいなと微かな期待をしていた  
 コーヒーの花が数輪ですが咲いた  
 のです。真っ白な可愛い小さな5  
 弁の花で、小さくてもその香りが  
 柑橘類の花のように、何処から香っ  
 ているのという程に辺り一面かぐ  
 わしいです。しかし咲いている時  
 間は短くて、2日ほどでした。花が  
 咲くと、欲張りなことに、今度は実が着くのかなと思ってしまいます。調べ  
 てみると、実がしっかりと出来るまでは4ヶ月ほどかかるようです。これま  
 た期待しながら待つことになりそうです。



もう二つ嬉しいことがありました。納骨堂建設のために涙ながらに切っ  
 た枝垂れ桜と楓の樹が、残された根のところから芽を吹き出しました。何年  
 先になるか判りませんがいつかまた花を咲かせ木陰となってくれるかも知れ



ません。お浄土から楽しませ  
 ていただこうと思います。し  
 もつけも芽吹き、素人仕事で  
 移してみましたが、これは難  
 しそうです。これらも雨のお  
 かげかもしれません。有り難  
 いことです。